



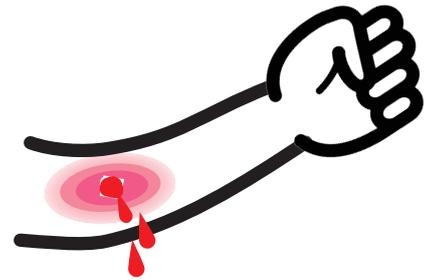
採血を受ける患者さまへ

血液検査は、病気診断・病状把握を行うために必要な医療行為です。基本的に安全性の高い手技ですが、**まれに合併症が起きることがあります。**

患者さまには、血液検査の必要性・危険性を十分にご理解いただいた上で検査を受けていただくようお願いいたします。

血液検査における合併症

①止血困難・皮下血腫



採血後の不十分な止血操作などが主な原因です。

採血後は、**5分程度**親指でしっかり圧迫してください。

抗凝固薬を服用中の方は、10分程度親指でしっかり圧迫してください。

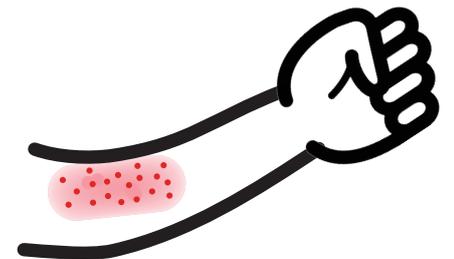
出血しやすい方はお申し出ください。内出血があっても、ほとんどが1週間程度で自然に治ります。

②アレルギー

消毒薬の種類などでかゆみ、発疹を

はじめとするアレルギー症状が出る場合があります。

アレルギーのある方は、検査前にスタッフにお申し出ください。





③神経損傷

皮膚の表層近くの神経は個人差が大きいいため、神経損傷を100%防ぐことはできず、

約1万～10万回に1回の頻度で起こるとされています。

針を刺したときに**手指への強い痛みやしびれが出た**場合は、**すぐにお申し出ください。**

大部分は1週間以内に、多くは**3か月以内に改善**します。



④血管迷走神経反射

検査前や検査中に神経が興奮し、急激に血圧が下がるために、**めまい、気分不快、意識消失**などを引き起こします。

ご経験のある方は、検査前にお申し出ください。



これらの合併症は、血液検査のみならず、血管穿刺（けっかんせんし：血液や体液、細胞などの採取のために、体外から血管、体腔内、内臓に針を刺すこと）を行うすべての検査・処置で起こる可能性があります。

ご不明な点がある場合は、診察の際、医師によく確認し、ご納得の上お受けいただくようお願いいたします。

また、**合併症が起きた場合には、最善の処置を行います。**

なお、その際の医療は通常の**保険診療**となります。